

今月の御教え

人を殺すというが、心で殺すのが重い罪じゃ。それが神の機感にかなわぬ。目に見えて殺すのは、お上があつてそれぞれのお仕置にあうが、心で殺すのは神が見ておるぞ。

……金光教祖御理解 第七十五節……

解説

人を殺すというのは、人倫にもとる、最低最悪の行為であることは自明のことではありますが、しかし『心で殺す』即ち「殺してやりたい!」「あんな奴は死ねばいい!」などと思うことさえも、『重い罪じゃ』と、まるで殺人と同格とも思えるほどに、論し戒められているのでは、なぜなのでしょう。

その理由は「みな、神の分け御霊を授けてもらい、肉体を与えてもらつて、この世に生まれてきているのである」「体は地から生じて、もとの地に帰るが、魂は天から授けられて、また天に帰るのである。死ぬというのは、魂と体とが分かれることである」との生神金光大神様の御理解から窺い知ることができます。即ち、全ての人々の助かり立ち行きを願い続けられる天地の祖神様のその『お心』を分けて頂いてこそ初めてこの世に生を受けた私達人間は、その『神様の思いに適う心を持ち続ける』使命があるのです。故に、その思いに逆行する心の持ち方『心で殺す』思いは持つてはならないのです。

もしそのような思いが心の隅から顔を出しかかったら、直ぐお詫びしつつ改まってゆくことが神様の御機感に適うことであり、そこから信心が成長し御蔭を頂くことができます。

明年の春は、いよいよ西条教会設立百十年の御年柄、今こそ共に信心の稽古に励もうではありませんか。